Creative Enzymes®

ネイティブβ溶血性ストレプトコッカス ストレプトキナーゼ

Cat. No. NATE-0670

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	ストレプトキナーゼ（SK）は、いくつかの種のストレプトコッカスによって分泌される酵素であり、ヒトプラスミノーゲンに結合して活性化することができます。SKは、心筋梗塞（心臓発作）や肺塞栓症のいくつかのケースにおいて、効果的で安価な血栓溶解□として使用されます。ストレプトキナーゼはフィブリノリティクスとして知られる□剤群に属し、ストレプトキナーゼとヒトプラスミノーゲンの複合体は、結合の切断を通じて他の未結合プラスミノーゲンを加水分解的に活性化し、プラスミンを生成することができます。ストレプトキナーゼには、α（残基1–150）、β（残基151–287）、およびγ（残基288–414）という3つのドメインがあります。各ドメインはプラスミノーゲンに結合しますが、いずれも独立してプラスミノーゲンを活性化することはできません。
用途	ストレプトキナーゼは、虚血性脳卒中の治療において一般的に血栓溶解剤として使用されます。この治療には、重要なリスクとして脳内出血があります。ストレプトキナーゼは、合併症を伴う副肺炎性胸水および膿胸の治療にも使用されており、ここでは副作用、アレルギータイプは稀です。ストレプトキナーゼは、虚血性脳卒中の治療において一般的に血栓溶解剤として使用されます。この治療には、重要なリスクとして脳内出血があります。ストレプトキナーゼは、合併症を伴う副肺炎性胸水および膿胸の治療にも使用されており、ここでは副作用、アレルギータイプは稀です。ストレプトキナーゼは、心筋梗塞患者における一次冠動脈介入と血栓溶解療法を比較する研究で使用されました。
別名	ストレプトキナーゼ; SK; EC 3.4.99.0; 9002-01-1

製品情報

種	β-溶血性ストレプトコッカス
由来	β-溶血性ストレプトコッカス（ランスフィールド群C）
形態	バイウレットおよびグルタミン酸ナトリウムによる総タンパク質が約50%含まれる凍結乾燥粉末。総タンパク質は酵素タンパク質とヒト血清アルブミンで構成されています。
EC番号	EC 3.4.99.0
CAS登□番号	9002-01-1
活性	> 3,500 ユニット/mg 固体
単位定義	1ユニットは、pH 7.5、37°Cで10分間でフィブリノーゲン、プラスミノーゲン、およびトロンビンの標準的な塊を液化します。

保管・発送情報

保存方法	−20°C